

東北支援レポート NO.3 7月28日発行

グループわ 被災地へ活動チーム派遣

田んぼのガレキ除去・子供達との交歓会・支援物資提供



【活動のあらまし】

神戸市シルバーカレッジ（北区・略称KSC）の卒業生でつくるNPO法人「グループ〈わ〉」は、東日本大震災の被災地へ7月18日から22日までの5日間、「東北被災地支援チーム」（団長・道満俊徳）を派遣。宮城県大崎市の「NPO 田んぼ」を拠点に、南三陸町・大崎市・登米市地域で、①田んぼの修復作業と、②子供たちとの交歓会を実施しました。③あわせて、学内募金で購入したり、カレッジ生から集めたりした日用品・医薬品・衣類・雑貨・文具・玩具・農機具などの物資（ダンボール65箱分）を届けてきました。参加者は70歳前後のシルバーカレッジOBと現役17人。わずかな期間でしたが、ガレキ除去のお手伝いできたこと、ブンブンゴマや紙トンボなどで子供たちに喜んでもらったことが、何よりの収穫でした。今回の体験を生かし、秋には第2陣のチームを派遣する予定です。（活動の詳細は別項に）



【派遣の趣旨】

写真＝南三陸町入谷でガレキ除去作業③ 登米市迫児童館で子供達と昔遊び④

神戸市シルバーカレッジ（KSC）は、「再び学んで他のために」を校是としています。NPO法人「グループわ」も阪神大震災でのボランティア活動を機に、カレッジ卒業生で結成されたものです。グループわでは、東日本大震災直後の3月15日から救援募金を開始し、神戸市振興協会を通じて4月初めに約50万円を神戸市に寄託。以後も募金活動を続け、支援物資を集めています。今回、グループ〈わ〉としてチームを編成。物資を届けるとともに、現地でも何かお手伝いをしよう、ということになったものです。

グループ〈わ〉には音楽・踊り・料理・昔遊びなど62のサークルがあり、老人施設や児童館、学校などへの訪問活動を日常的に続けています。こうした活動が、被災地でもできないか。現地の子供たちと息の長い交流ができないか、を模索。4月から拠点探しを進め、保田茂講師（生活環境コース）の紹介で「NPO 田んぼ」（大崎市田尻大貫字荒屋敷）と連携することにしました。

また、「支援物資を届けたいが、自治体などでは受け付けてくれない」との声が、グループ〈わ〉にも多く寄せられており、「NPO 田んぼ」の協力を得て、今回、車4台分の物資を届けることができました。

【日程・チーム構成・活動場所】

▼7月18日＝早朝、カレッジ（しあわせの村）から4台の車に分乗して出発。阪神～中国～北陸～磐越～東北のルートで拠点となる宮城県大崎市へ。同夜は大崎市内で仮眠しました。

▼19～21日＝「NPO 田んぼ」のプランに従い2班に分かれてボランティア活動をしました。

活動場所はA班（田んぼグループ）は南三陸町入谷地区の田んぼ（2反分）。B班（昔遊びグループ）は大崎市・

登米市内の小学校・児童館 計5か所。

▼22日＝早朝、現地を出発。往路と同じルートで深夜に神戸・シルバーカレッジ帰着。

▼チーム構成は、A班＝田んぼグループ9人。B班＝昔遊びグループ8人。内訳は〈わ〉本部から4人・現役5人・OB8人（うち女性4人）の計17人です。

【活動内容の詳細】

【19日】 ▼A班（田んぼグループ） 朝9時、大崎市のNPO「田んぼ」集合。代表の岩淵氏の案内で南三陸町入谷地区へ。海岸から約3キロの地点で、熊田川という幅5～7メートルほどの川沿いですが、田んぼには木材・壊れた家の柱・家財・ボート・寝具などあらゆる漂着物が堆積しています。これを道路脇までスコップ・クワ・一輪車などで運ぶ作業です。

▼B班（昔遊びグループ） 午前10時から登米市米山児童館で親子40人、午後は同市中田児童館で小学生50人を対象に約2時間ずつ公演しました。紙芝居や南京玉すだれを披露。ぶんぶんゴマ、あやとり、折り紙、紙トンボ、動物風船などを子供たちと一緒に作り、遊びます。こういう体験はないのか、子供たちは大喜びです。最後に、神戸の子供たちからの「がんばって」のメッセージを渡し、飴玉が詰まった箱、テニスボール、おもちゃ、折り紙などをプレゼント。子供たちの「ありがとう」の声に送られて、お別れです。

【20日】 ▼A班 台風6号の影響で大雨が予想されたため、JA南三陸入谷支所からの要請で田んぼ作業は中止。メンバーは昔遊び公演の応援に回りました。

▼B班 午前は大崎市大貫小学校体育館で、幼稚園・小学生60人を対象に、前日と同じプログラムの公演。午後は登米市迫児童館で小学生約70人を相手に公演しました。迫での公演は神戸福祉振興協会（しあわせの村）派遣チームと共演となり、午後3時～4時半まで振興協会のコンサートが行われ、昔遊びグループはその後、午後6時近くまで子供たちと楽しいひと時を過ごしました。プレゼント贈呈は同じです。

【21日】 ▼A班 朝7時半、大崎市の宿舎を出発。9時前から入谷地区の田んぼで、午前中いっぱいガレキ除去作業をしました。この日は寒いくらいの涼しさで、作業効率があがって助かりました。

▼B班 午前中、登米市登米児童館で避難者や子供たち30人を相手に公演。プログラムは前日までとほぼ同じ。子供たちは、ボールやおもちゃのプレゼントをたいそう喜んでくれました。

▼A班・B班とも、午後は宮城学院女子大教授・佐藤幸也氏（宮城県の復興計画メンバー）の案内で、南三陸海岸・石巻市の被災地を見て歩きました。一面ガレキと化した町の惨状には、みんな言葉もありません。とりわけ、子供たち多数が亡くなった石巻市立大川小学校（遺体確認80、不明70人）の変わり果てた校舎の前に立つと、涙がとまりませんでした。こうした被災地の現状を見ると、「私たちもまだまだ支援をつづけなければ」との思いを新たにしました。

▼宿舎 19～21日は大崎市内のビジネスホテルだったので、活動場所まで連日通う形になりました。

写真＝支援物資が運び込まれた登米市の避難所

【支援物資は避難所へ】

①「田んぼ」から要望のあった農機具類50点（鋤、鍬、鎌、農薬噴霧器、シャベル、ノコギリ、ツルハシ、鉄板入り長靴の中敷など）。（野菜の種などは5月に託送済み）

②カレッジ生から提供のあった物資ダンボール65箱分（医薬品・洗剤・殺虫剤・台所用品・食器・雑貨・スポーツ用品・文具・おもちゃ・夏物衣類・寝具類など。レンタカー4台（バン型3、普通車1）にダンボール65箱分と農機具を積み込み、運びました。

カレッジからの提供物資は、登米市登米体育館の避難所に直接届けることができ、感謝されました。ここには南三陸町の避難者27世帯81人（ピーク時200人）が生活しており、今後も定期的に支援を続けることになりました。



【支援チーム参加者】 わ本部4人・現役5人・OB8人（うち女性4人）

▽わ本部＝道満俊徳（生13・団長・1班） 芦田義和（生15・1班・会計） 渡邊佳視（生12・2班・総務） 南形徹（生14・2班・広報）
▽1班＝内村ナナ子（国18） 平林啓子（音18） 水島和信（生12） 清野明（生13）、小澤輝彦（生13）、片岡隆夫（国17） 海野龍英（食16）
▽2班＝内田たみ子（福10） 増金スミ子（福11） 古後健一（福18） 飯川泰郎（国12） 大澤貞男（生13） 黒本茂弘（食13）